



血管カテーテル治療について

放射線診断科部長
画像診断センター長

おおかわ よしひさ
大川 賀久

放射線診断科では、CTやMRIなどの画像診断以外に、血管カテーテル治療を行っています。これはカテーテルという軟らかいチューブを血管内に入れて、さまざまな治療を行うものです。外科手術と比較して体への負担が格段に少なく、傷もほとんど残りません。

例えば、肝臓がんで何らかの理由で手術が行えない場合には、この治療法の出番となります。がんは栄養を運ぶ動脈にカテーテルを入れて、抗癌剤や血管を閉塞させる塞栓物質を注入します。栄養が届かなくなつたがんは縮小し、消失することもあります。体への負担が少ないため再発がんに繰り返して行うことも可能で、肝臓がん治療の一つの柱となっています。

また、出血の治療にも力を発揮します。肺からの喀血、消化管出血、交通事故などで傷ついた肝臓などからの出血、産後の子宮出血などに対して、出血している動脈にカテー

テルを入れて、塞栓物質を詰めて止血します。

放射線診断科では、これらの治療を年に約60件行っています。この治療法はX線テレビを使用するため、放射線被ばくを伴います。最新の機器を使用しており、低被ばくで行えますが、X線テレビの使用時間をできる限り短くするように常に配慮しています。

血管カテーテル治療は、患者さんが受ける利益が放射線被ばくや合併症の危険よりも上回る場合に、患者さんに十分な説明をして納得いただいた上で行っています。そのため安心して血管カテーテル治療を受けることができます。



新生活スタート

「悪質業者」が狙っています！

市民相談センター

☎ 0538-37-4746

相談先 消費者ホットライン

「1888」まで



新年度を迎え、新しい体験に心躍る季節ですが、その反面、若者を狙った悪質な業者が活発に行動する時期でもあります。

若者に限らず、この時期、特に気を付けてほしいトラブルを紹介します。

訪問販売契約のトラブル

賃貸物件などで一人暮らしを始めた若者が、電気やガスなどの契約を持ち掛ける訪問販売を受けることがあります。中には「アパート全体が契約を変更することになっている」というような嘘を言われ、契約変更をしてしまったという例もあります。

インターホン越しに対応し室内に入れない、すぐに契約をしないように心掛けましょう。断ることで声を荒げたり、脅迫的な言動をしたりする訪問者もありますが、応じないでください。「次に来たらどうすればいいだろう」契約をしたけど大丈夫か

な」と不安になったら、消費生活センターに相談してください。

借金させる副業や投資のトラブル

副業や投資で簡単に稼げることをうたった成功談がSNSなどで流れてきます。こうした記事に誘われて、副業や投資の費用をクレジットカードや消費者金融で借り入れさせる「クレサラ強要」といわれる手口で詐欺にあう人が増えています。副業や投資の出資金としてお金を振り込んだとたん、相手と連絡が取れなくなり、手元には莫大な借金だけが残ることになります。

こうした儲け話は詐欺だと疑いましょう。まずは信じないこと、個人情報などを安易に渡さないことが大切です。もし誤って個人情報や渡してしまったとか、メールなどのやり取りを始めてしまったら、一人で解決しようとしなくて、消費生活センターに相談しましょう。